

# 津和野町架け橋カリキュラム

期待する子ども像		好奇心から始まり、対話と協働を通して自己実現がはかれる子					
項目	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4	フェーズ5	フェーズ6	
架け橋期の終わりに育ってほしい姿	プレイフルラーニング (好奇心)	室内、戸外を問わず、興味・関心を持って自ら環境に関わる。	友だちや保育者の姿を見て、興味関心の幅を広げている。	自分の興味、関心を他者に知らせ、その面白さを共有しようとする。	新しい環境で生活をする中で、日々の学習や活動に興味をもっている。	探究心をもって予想したり、試したりして、主体的に問題を解決しようとする。	自らの経験則から考えたり判断したりする中で、新たな発見をしたり、もっと楽しくなる考え方に気づいたりして「知る」「関わる」「感じる」ことを面白がる。
	トライ&エラー (思考力の芽生え)	自ら環境に関わりながら、自分なりに試行錯誤をしようとする。	友だちや保育者から刺激を受け、自らの経験と織り交ぜながら、自分なりの考えを生み出そうとする。	自分なりの仮説を立て、友だちと協力しながら自分たちの思いを叶えようとする。	できること・できそうなこと・やってみたいことにトライ&エラーをしながら新たな生活環境の中で楽しさを見つける。	できること・できそうなこと・やってみたいことにトライ&エラーをしながら新たな生活の楽しさを見つける。 ※多様なモノ(道具・自然物・生き物など)の性質や仕組みについて考え、よりよい考えを生み出す。	できること・できそうなこと・やってみたいことにトライ&エラーをしながら新たな生活の楽しさを見つける。 ※自ら判断したり、みんなで考え直したりと試行錯誤して、よりよい解決方法を試しながら、その面白さを表現する。
	リフレクション (振り返り)	試行錯誤の過程を振り返り、次へ活かそうとする。	友だちと一緒に活動を振り返る中で、他者の思いや考えに触れ、想像を豊かに膨らませる。	話し合いの中で出る様々な意見や考えを受け止め、自分の思いも伝えながらよりよい考えを生み出そうとする。	新たな集団になっても、自分の考えを伝えたり、周りの人々の考えを聞いたりする。	自分の行動や考え方の理由に対して、主観的にそのときの状況や気持ちを言葉や絵などを用いて表現できる。	これまでの経験を用いて自分の思いを伝えたり、他者の考えを受け入れたりしながら、体験したことを次の活動に生かそうとする。

## 安心安全な場をつくるために心がけること(大人のカリキュラム)

		5歳児			第1学年		
大事にしたい言葉がけなど	協働(協同性)	・日々のサークルタイムの中で、他児の姿が見えるように代弁したり整理したりし、子ども同士が繋がっていくことを意識して関わる。	・友だちと一緒に1つのことへ向かっていく達成感を味わえるような活動の展開を心掛ける。	・同じような目的や課題をもった仲間と協力して目標を達成したり、問題を解決したりしようとする。	・新しく出会うクラスメートや他学年、先生たちと共に活動する環境づくりをする。	・自分の身の回りのものやこと、人に興味をもちながら自発的に関わるようにする。	・子どもたちの考えたことややってみたいことのトライ&エラーができる環境
	対話(言葉による伝え合い)	・自分の思いや考えを受け止めてもらえる存在となることを意識し、対話することの面白さが伝わるようにする。	・子ども一人一人の発達段階や特性を見極め、それぞれの発言が理解できるように代弁し、子ども同士の対話を支えている。	・子ども同士の対話を見守りながら、必要な場面では言葉を足したり相手に分かる言葉に替えて説明したりする。相手の気持ちや考えを知った上で、互いに納得できる点を見つけ、折り合いをつけられるよう援助する。	・様々な環境(=異なる園)から集まった集団でも、それぞれの園での育ちや学びを生かしながら、子どもたち一人ひとりが安心して発言したり傾聴したりできる環境づくりを行う。	・自分の思いや考え(喜怒哀楽)を塞ぎ込まずに友だちや先生に伝えられる環境づくりを行う。	・周りの友だちや先生とお互いに意見を共有し合いながら、考えや課題を深められるようにする。
	子どもの学びや生活を豊かにする園・校の環境づくり	・子どもの興味や発達段階にあった環境を設定し、夢中になっている様子を撮影して掲示するなど、子どもが自分の姿を振り返ることができるようにする。	・子ども同士が集まって対話ができる時間を保育の中に設定し、他者の思いに触れる機会を持つ。	・先の見通しが持てるようにボードなどを活用して情報を可視化し、子どもたちが協力してよりよい考えが生まれるようにする。	・子どもたちが安心して生活できる環境空間 ・ワクワクしながら学びに向かえる教室環境 ・小勢一多勢にならない学級風土づくり →園による人数差、集団で過ごす経験差などへの配慮	・興味・関心の広がりや深まりが起る教室環境 ・思っていることを安心して発言/表現できる環境	・子どもたちの考えたことややってみたいことのトライ&エラーができる環境
具体的な取組・姿勢	子どもの学びや生活を豊かにする環境設定	・細かいコーナー(目安:保育室につき4コーナー以上)を作ること意識し、必要に応じて再構成していく。 ・サークルタイムができる場作りを行う。 ・写真・ドキュメンテーションを掲示する。 ・子どもたち一人一人の興味関心を捉え、保育室内や園庭の環境構成に反映させる。	・壁や棚を活用して子どもの作品を飾ったり、遊びについての振り返りを行ったりする中で、他児の姿が目に入るように工夫する。 ・遊びの過程を記録・掲示する	・先の見通しが持てるよう、ボードなどを活用して可視化し、子どもたちが協力してよりよい考えが生まれるようにする。 ・話し合いの過程や、夢中になっている遊びの様子が他児にも見えるように保育室内に掲示をする。 ・より本物らしく、より緻密に様々な素材や道具を自由に使えるように設定する。	・子どもと目線が揃う椅子の設置する。 ・机の配置を個別前向きではなく協働/対話が発生しやすい位置に設置する。 ・安心して遊び込める道具(折り紙やマットなど)を配置する。	・学習にかかわる学級文庫を設置する。 ・子どもに任せる話し合いを意識する。 ・グループ、ペア学習を取り入れる。 ・子どもたちの考えたことややってみたいことのトライ&エラーができる環境づくりをする。	・異年齢と関わるイベントを実施する。
	大人の姿勢(意識)	寄り添う・見守る・提案する・代弁する。 やってみたいができるようにする。 子どもの声(気持ち)を聞く。 これまでに子どもたちがしてきた経験を振り返りながら、一人一人の興味を探る。 きっかけづくりを意識する。 すべてを与えない。	代弁する・まとめる・子どもの声を拾う 夢中がクラスのブームと一緒に悩む。迷う。 すぐに解決しない。 モヤモヤを味わう。 ・お互いがあり合えるところを見つける。	支える・まとめる・可視化する 仲間と協力することを楽しむ	・遊びから始まる学び(生活科中心)を意識する。 ・わくわく・はてなを生む学習。 ・指示しすぎない・教えすぎない・否定をしない。 ・すぐにダメと言わず、意図を伝える(子どもたちが納得いく応答) ・子どもの想いを聴く。(感じ取る) ・子ども同士で解決できるよう見守る。	・多様性を受け止める言葉がけ、雰囲気を中心掛ける。	
振り返り	[4月~7月]	[8月~11月]	[12月~3月]	[1学期]	[2学期]	[3学期]	

< 架け橋事業関係年間計画表 >

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
架け橋スケジュール	会議体 (各地区)	第1回会議(保小連絡会) (4/23-25)	実践①事前打ち合わせ会 実践①事後ふりかえり会	第2回会議 ※既存の保小連絡会を兼ねる	実践②事前打ち合わせ会 実践②事後ふりかえり会			第3回会議 実践③事前打ち合わせ会 実践③事後ふりかえり会				実践④事前打ち合わせ会	第4回会議	
	内容	・子どもの実態共有 (1年生の様子見学含む) ・指標による大人の目合わせ ・実践の内容検討 ・顔合わせ(特に新任同士) ・年間計画の共有			・これまでの日々や実践について保小から共有 ・共同実践の指導案作成			・これまでの日々や実践について保小から共有 ・共同実践の指導案作成			・共同実践の指導案作成 ・プログラムについての検証 ・次年度に向けての振り返り ・次年度計画の検討			
	共同実践		実践①安心安全な環境づくり テーマ「春」 例)ピクニック		実践②好奇心あふれる環境づくり テーマ「夏」 例)川遊び(水遊び)	架け橋全体研修 (委員会主導型)			実践③好奇心あふれる環境づくり テーマ「秋」 例)秋の森山遊び				実践④1年生の主体性と5歳児の小学校への期待 例)学校探検	
	共通	※子どもの情報共有や、大人の言葉かけ・環境設定についての情報共有 (通年で随時) ・校種を越えて子どもの姿を見る・知る												
	学校	※公開保育等の参観(通年) ・保育士の関わりを知る ・子の姿を見る						保育体験(半数参加) ・保育についての研修(1H) ・体験(2H) ・振り返り(午睡裏)						
	保育園	※学習公開日や研究事業への保育士の参観(通年) ・教員の関わりを知る ・子の姿を見る												
合同実践振り返り (合同実践を行った月に記入)														

Period	4・5	6・7	8・9	10・11	12・1	2・3
関連する教科	学活:1年生になって 国語:おおきくなった	国語:としょかんはどこなところ 図工:カラフルいろみず	国語:えにききをかこう 図工:すなやつちとなかよし	国語:ことばあそびうたをつくろう 音楽:おとさがし :さがしてみよう、ならしてみよう	国語:はっけんしたよ 国語:おもいだしてかこう 図工:うつつしたかたちから (みつけたあきであそぶ)	図工:おはなしからうまれたよ 国語:小学校のことをしようかいしよう 図工:いろいろなかたちのかみから (あそんだふゆをしようかいしよう)
生活科	はるとなかよし		なつとなかよし		あきとなかよし / いきものだいすき	
単元構成	げんきにそだてわたしのはな はるのいきもの	なつのいきもの	かわあそび・みずあそび	あきのいきもの	あきみつけ	あきみつけ
関連する内容	アサガオの栽培/観察 学校・畑・林	学校プール	校庭・高津川	アサガオの観察/種採り 校庭、カントリーパーク、うしのしっぽ	どんぐり、落ち葉、虫	風車、風揚げ 地域のお寺、校庭、雪 雪、氷、寒さ
子どもの姿	新しい構成メンバーでの関係づくり 心理的安心感をもてているか 新たな環境(学校)での自分の存在、自己表現 興味関心へのアンテナ		興味関心を抱いたことに対してトライ&エラー 集団で協働していくことへの喜び		自分の課題や興味関心を広げていく 自己の思いに他者を巻き込んで解決していく 授業を通じて様々な ヒトコトモノ を面白がる	
キーワード	何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ サークルタイム(机、椅子の配置、マットの設置など):協働 / 対話が発生しやすい環境設定 教員の言葉かけ 安心して遊び込める教具や道具 わくわくはてな 指示しすぎない 教えずすぎない 子どもの想いに傾聴する 子どもたちの納得感(すぐにダメではない、理由がある)		何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ 子どもたち目線の環境設定 自発的に自分たちから取り組む環境設定/授業構成 教員の言葉かけの質 コンピテンシーベースで捉える わくわくはてな やってみよ!		何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ 多様性を受け止める言葉かけや雰囲気、姿勢 お互いの信頼関係 わくわくはてな 面白そう! まぜる・まざる	

小学校	関連する教科	学活:1年生になって 国語:おおきくなった	国語:としょかんはどこなところ 図工:カラフルいろみず	国語:えにききをかこう 図工:すなやつちとなかよし	国語:ことばあそびうたをつくろう 音楽:おとさがし :さがしてみよう、ならしてみよう	国語:はっけんしたよ 国語:おもいだしてかこう 図工:うつつしたかたちから (みつけたあきであそぶ)	図工:おはなしからうまれたよ 国語:小学校のことをしようかいしよう 図工:いろいろなかたちのかみから (あそんだふゆをしようかいしよう)
	生活科	はるとなかよし		なつとなかよし		あきとなかよし / いきものだいすき	
	単元構成	げんきにそだてわたしのはな はるのいきもの	なつのいきもの	かわあそび・みずあそび	あきのいきもの	あきみつけ	あきみつけ
	関連する内容	アサガオの栽培/観察 学校・畑・林	学校プール	校庭・高津川	アサガオの観察/種採り 校庭、カントリーパーク、うしのしっぽ	どんぐり、落ち葉、虫	風車、風揚げ 地域のお寺、校庭、雪 雪、氷、寒さ
	子どもの姿	新しい構成メンバーでの関係づくり 心理的安心感をもてているか 新たな環境(学校)での自分の存在、自己表現 興味関心へのアンテナ		興味関心を抱いたことに対してトライ&エラー 集団で協働していくことへの喜び		自分の課題や興味関心を広げていく 自己の思いに他者を巻き込んで解決していく 授業を通じて様々な ヒトコトモノ を面白がる	
	キーワード	何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ サークルタイム(机、椅子の配置、マットの設置など):協働 / 対話が発生しやすい環境設定 教員の言葉かけ 安心して遊び込める教具や道具 わくわくはてな 指示しすぎない 教えずすぎない 子どもの想いに傾聴する 子どもたちの納得感(すぐにダメではない、理由がある)		何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ 子どもたち目線の環境設定 自発的に自分たちから取り組む環境設定/授業構成 教員の言葉かけの質 コンピテンシーベースで捉える わくわくはてな やってみよ!		何よりも信頼関係・愛情・教員の余白(余裕)・選択肢を複数持つ 多様性を受け止める言葉かけや雰囲気、姿勢 お互いの信頼関係 わくわくはてな 面白そう! まぜる・まざる	

うしのしっぽ	遊び活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物探し トカゲ・カナヘビ・幼虫・ミミズ・おたまじゃくし・はみみょう・カニ・くわがた・かぶとむし・さかな・バッタ・こおろぎ・キリギリス・鈴虫</li> <li>・山菜つみ つくし・よもぎ・わらび・ぜんまい・タラの芽・こごみ・こしあぶら</li> <li>・果実つみ さくらんぼ・びわ・すもも・野いちご</li> <li>・土遊び・泥遊び・水遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川遊び</li> <li>・山菜つみ しいたけ・きのこ</li> <li>・果実つみ なつめ・ブルーベリー・いちじく・柿・栗・くるみ・銀杏・むかご・がまずみ・ゆず・みかん・冬いちご</li> <li>・たき火</li> <li>・雪遊び・そり遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールのある遊び 鬼ごっこ・増え鬼・ドロボウ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物探し ひきかえる・かえるの卵</li> </ul>	
	子どもの姿	新しい構成メンバーでの関係作り 自分をだす、表現する	自分の立ち位置を確立していく 言葉で自分の気持ちや感情を伝えられる	仲間意識の芽生え 結束力、助け合う	仲間意識の深まり ルールのある遊びに関心が強まる	仲間意識の深まり 人を受け入れる 我慢する力、辛いこと、嫌な事にも挑戦しようと思う力 人を思いやる力・認め合う力
	キーワード	年長児が抜けて、新たな関係性の中で生まれる姿 子ども同士の関わりが見られるまでは大人は積極的に関わる。 子ども同士でうまくいかないことが起こった場合は、それぞれの状況をそれぞれに伝え、今 どんなことが起こっているのか理解できるように努める。 大人が解決させようとするのではなく、互いが状況を理解できるような言葉をかけていく。	お泊り保育という同じ境遇(非日常)を体験することにより、仲間と協力するということがより強く意識される。 お泊り保育では、自分たちがやりたいことを話し合いの中で決めていく。 計画(限られた金額、時間)を立てる段階から仲間と協力する意識が生まれていくようになる。 実現するかしないか検討していく。 現実的にできるかどうかを考える。 自分だけでなく、相手の思いもある。 周りの大人の手を借りずに、自分たちで どうしたら自分たちのやりたいを考えられるか考えられるようにする。 妥協する経験も含めて自分の思いに折りあいをつけながら仲間と進めていく。だから失敗があったとしても受け入れられる。誰のせいにもしない。 1回しかない中でどうするか。自分と人は違うことも見えてくる(お風呂の入り方一つとっても違う。 家庭に寄っての価値観の違いに気付く、知る経験をする。	運動会等をきっかけのリレーなどルールのある遊びがブームになる。 少しずつ自分たちでその都度ルールを作って遊び始める。 お泊りの経験からお互いを頼る姿が出てくる。 子どもたちのルールでルールのある遊びが始まるが、大人が「いい」「悪い」の判断はせず、動向を見守る。その中で、困っている様子の子どもの場合は声をかけ、今の状況を説明する。説明することで、勘違いから生まれるトラブルは減っていく。 子どもが考えた鬼ごっこに大人がのっかり、一緒になってたのしむ中で子どもたちの選択肢を広げていく。 原因を人に持っていかないと話し合いが面白くなる(○○ちゃんがなんとかしてこうだった)根本の原因を解明すること。	寒い冬、冷たい冬、厳しい自然環境をいつもそばにいる大人が子どもと共にがんばりぬくという経験ができるように心掛ける。 一人一人のことを大切に作る雰囲気。 厳しい寒さの自然環境の中で過ごすことで、我慢したりその場の辛さを乗り越えたりする経験をする。乗り越えたらもっと楽しいことがあるという期待感。人からいわれる我慢ではなく、自然からいわれる我慢というイメージ。 これまでの生活でやりたいことを叶え、やりたくないことはやらないことも多いが、我慢することは必要。滑りたい⇒登るのは大変⇒でもやりたいから登る 自然でこれを体験していること、人からの我慢も乗り越えられる。感覚的に、しんどいことの先には何かいいことがあるという感覚がある状態。こうなりたい姿に向けて頑張る⇒ 嫌なことを我慢させることが目的ではなく、耐性をつけることが目的。これまで過ごしてきた、遊び込んできて、遊び方がわかって楽しみが分かっているから乗り越えられる。寒いけど楽しいこととセットにしていく。	